

TOEIC 学習で飛行機内の座席上部の荷物置をなんと言うかが話題になりました。「ストーウィチ ビン」というのだそうです。中学校の英語教科書 (Total) では **compartment** を使いますが、「ストーリッジ」 **storage** [stó:ridʒ] と最初は勘違いしていました。storage bin ではなく **stowage bin** と呼んでいるのだそうです。

stowage の関連語には **stow, bestow, stowaway, Bristol** (地名の語尾である ~スタン、パキスタン、カザフスタン) Confer the similar usage in forming toponyms in the cognate Indo-Iranian suffix *-stan*. **stash** 《 stow と cache の混成語、stow/stóu/は「(…)をしまい込む、収納する」cache/k'æf/ は「(武器などの) 隠し場所、隠匿物資」「(…)を(隠し場所に) 貯える」という意味がそれぞれあり、どちらも人目につかないようにするという点で共通しています》などがあります。

stow の語源は；「置く」、「場所」が原義でした。

c. 1300, "to put, place (somewhere)," verbal use of Old English noun *stow* "a place, spot, site, locality" (common in place names), …中略… from PIE **stau-* "stout, standing, strong," extended form of root **sta-* "to stand, make or be firm"

PIE の語根 **sta-* まで遡ると関連語はなんと **170 語以上** となります！

★手荷物に関する案内を英語で紹介します。

ここでは、**stowage bin** ではなく **overhead bin** と表現しています。(航空会社で呼称が違うようです。)

Please **stow** your carry-on items in an overhead bin or under the seat in front of you.

お手荷物は頭上の荷物入れや前の座席の下にご収納ください。<注>**stow**[stóu]: **きっちり詰め込む**；手荷物の収納には put や place のほかにこの stow をよく使います。突っつき棒のような物で確認している場面がありました。昔は CA の採用条件に身長〇〇以上とあったようです。

手荷物には「機内持ち込み手荷物」と「受託手荷物」があります。前者を **carry-on baggage** または **unchecked baggage**、後者を **checked baggage** といいます。ただし、ここでは手荷物を baggage や luggage ではなく item を使って表しています。

「手荷物を前の座席の下に収納する」は **stow your carry-on baggage under the seat in front of you** と一息で言えるように CA 志望の人は練習しましょう！ 次のように受動態になることもあります。

Your carry-on baggage must be stowed in an overhead bin or under the seat in front of you.

国内エアラインでは、乗客の手荷物を CA が手伝って収納することが多いようです。

★安全に関する英語を紹介します。

Table must be stowed during taxi, take-off and landing ここで言う「taxi」とは何でしょう？

taxi-- (名詞) タクシー、地上滑走、(動詞) タクシーで運ぶ、[飛行機などが]滑走する、自力で移動する。英英辞典でも調べてみると、**move slowly along the ground before takeoff or after landing**

離陸、着陸のあとに地上にそってゆっくりと動く「taxi」は、離着陸以外に、滑走路などをゆっくり動いている状態を意味します。TOEICにも、この「taxi」の意味が時々でるそうです。

ギャレーとガレー キャビンアテンダントはまるで galley 船の…

★Galley

飛行機内の調理室を Galley[géli]=GLY:ギャレーといい、ここで CA が機内食や飲み物などの準備をします。ギャレーは調理室ですが、**飛行機の中で火を使って料理をする**わけにはいきません。あらかじめケータリング会社で機内食を調理し、それを冷蔵状態でトレーに乗せ、カートにトレーごと積み重ねて保管しておきます。飛行機が出発してミールサービスの時間になると、CA はカートの電源ソケットにコネクタを差し込み、ギャレーの温めボタンを押します。すると、カートの中のトレーではアントレの下の加熱板が加熱され調理されるようになっています。

このように便利なカートがない時代には、カートの中からアントレを取り出し、オープンに数個ずつ入れて温め、またトレーにセットし直して乗客に提供していました。その量は半端ではなく、**汗まみれになってあちこちにやけどをしながらの作業だった**そうです。

★ここからは故事来歴・語源のお話

船舶、飛行機内の厨房すなわち調理室のことをギャレーと呼んでいるそうです。英語では galley と綴ります。これは古代からギリシャやローマの軍船として用いられ、一般にはガレー船という呼び名で知られる橈漕船のことです。ガレー船のガレーは、ラテン語の「ガレア(galea)」が語源だといわれています。ガレアとは古代戦士のかぶったヘルメットのことで、古代のガレーを描いた絵を見ると船首に描かれた大きな人の目と上方にせり上がった船首の形状がいかにもヘルメットをかぶった戦士の顔に似ているので、なるほどと納得させられます。

ところが、一説では同じくラテン語の「ガレ(gale)」が語源だともいわれています。ガレとはイタチのことです。そのほっそりとした体つきと素早い身のこなしがガレーの動きにぴったり当てはまるからだというわけです。そういえば、水面に顔を上げて泳ぐイタチの姿もガレーに似ていなくはありません。いずれにせよ、船としてのガレーの語源がそんなところにあっただろうことは間違いありません。では、なぜ厨房がギャレーと呼ばれているのでしょうか。船のガレーから派生した言葉であることは確かなようですが、いつ頃、どこで、どうしてできたのか、不明な点が多々あります。

ガレーの漕手はたいてい奴隷で構成されていました。それだけに**その仕事は苛酷であり重労働**でした。船の厨房の仕事も暑く酷いものでした。17世紀から18世紀にかけてヨーロッパにおける大型軍艦の厨房は下層甲板の穴蔵のようなところにあり、その日常はガレーの奴隷と変わりませんでした。厨房員自身がいい出したものか、あるいは他の乗組員が厨房の様子を見てそういうようになったのか、そのどちらかはよく分かりませんが、そんなところからギャレーという名になったらしいのです。ちなみに調理場が上甲板にあった頃や小型船のように風通しの良い場所にあったものについては、ギャレーではなくカブース(caboose)と呼んでいたそうです。